

【鹿沼】鳥居跡町、葉剤師でケアマネジャーの黒川雄三さん(80)が「なつかしい栃木の停車場」と題した本を自費出版した。約30年前に始めた「スケッチ修業」でほぼ網羅した県内の駅舎などの水彩画132点のほか、解説、趣味としてい

鹿沼の黒川さん

る川柳を書き添えた。昭和の駅舎のレトロな雰囲気は繊細、また漫画風にも描かれている力作だ。現在入院中の黒川さんは「本にするのは周囲の勧めもあり、長年の懸案だった。多くの人に手に取ってもらいたい」と話している。(枝村敏夫)

昭和の県内駅舎一冊に

県央・宇都宮版

SHIMOTSUKE SHIMOTSUKE SHIMOTSUKE SHIMOTSUKE

レトロ調、水彩画など132点 解説、川柳も添え自費出版



「なつかしい栃木の停車場」を自費出版した黒川さん

黒川さんは4月13日、市内で交通事故に遭い現在、入院リハビリ中。出版に当たり、関係者と最終打ち合わせのため待ち合わせ場所に歩いて向かう途中だった。7時間意識不明で危険な状態だったが回復、一本が完成するのが夢だったから命が繋がった」と話す。本はA5判248ページ。県

内ではJR、東武、野岩、わたらせ渓谷、真岡の各鉄道計12路線ごとに区分され、駅舎は118点。ほかに踏切など14点が掲載されている。黒川さんは約30年前、ある駅舎が解体されるシーンを覚えて記録として残そうと決意。写真は全て写つてしまいが、絵は風情のある部分だけ選んで描写できるため、修業として休日に乗で県内を駆け巡った。黒川さんによると当時は全127駅あり、約3年で全て描い

たというのが、数点は手元に残っていないという。改築され当時の面影が消えた駅舎は数多い。作品は長年、家に飾っておいた。2年前に市花木センター内のギャラリーで展示したところ、来場者から「旅行した気分になる」「当時の思い出がよみがえつた」などの声があり背中を押され、次代に残したいと自費出版を決意。当時、地域のの人に取材した駅名の由来や文献などを再構成、それぞれに川柳も加えた。黒川さんは「地元でいえばかつての鹿沼駅は重みがあった。多くの人は駅に思いがある。ページをめくって当時を思い出し、楽しんでもらえれば」と話す。希望者には2千円(税抜き)で頒布する。問い合わせ先は02889・62・4141。

夢のポリーム 中村心香さん (宇都宮市岡本小) ゆめはヘアメイクアーティストになることです。七五三のときにきれいにしてもらったように、みんなをきれいにしたいです。

●宇都宮総局 TEL.028(632)2958 FAX.028(633)6134 ●まちなか支局



内容がポリームアップされた「みなの文化財」

障害者施設の逸品ずらり

あすマルシエ

【宇都宮】市内の障害者支援施設で作られた軽食や小物などが並ぶ「わく・わ

様にB5判のサイズとなっている。担当の君島利行町文化財係長は「古墳のまちな生を裏付ける内容となっている。文化財に興味のある方にはぜひ目を通していただきたい」と話していた。(井上孝男)